

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 , 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム あい (風ユニット)	評価実施年月日	平成19年 12月1日
評価実施構成員氏名	工藤 三佳 ・ 三浦 洋平 ・ 鳴海 文義 ・ 富樫 真希 ・ 伍楼 玲子 ・ 竹内 亮太		
記録者氏名	工藤 三佳	記録年月日	平成19年 12月10日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>主となる理念を職員一同で出し合い考え事務所前に明示。地域密着型サービスの異義を日常的に確認し話すよう努力している。</p>	<p>広く開かれた生活の場となるよう理念にもとづき取り組んでいる。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>管理者と職員は理念を共有し、理念の実践に向け取り組んでいる。又、職員採用時、実習生の受け入れの際は理念を伝え理解してもらうようにしている。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>家族の方には説明し、会報を利用し取り組んでいる。しかし、地域の方との接点がまだまだ不足でこれからの課題にしている。</p>	<p>○ 町内の方知ってもらう為、町会用のホ-ム便りを置いて貰っている。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>日常的に散歩や買い物へ出掛け近隣の方と接するよう努め、また、行事の際にはポスターを作り近隣の方への参加していただけるよう呼びかけを行っている。</p>	<p>○ 同上</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>出来る限り町内会の行事には参加している。しかし、まだまだ不十分である。</p>	
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議の中で地域住民代表との関わりから地域に認知症の理解と認知症ケアの啓発に努めている。また、実習生の受け入れ、職場体験学習の受け入れも積極的に行っている。スタッフ研修、家族会開催時には家族への呼びかけをし認知症の理解や勉強会等行っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>13 運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者の日々の様子、言葉や態度から思いを察する努力を行い、不安や意見等出された際にはミーティング時に話し合いを行っている。</p>		
<p>14 家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>暮らしぶりや健康状態については電話にて伝えている。また、領収書は原本、金銭帳については1ヶ月ごとにコピーをし家族へ報告している。</p>		<p>家族に方がホームへ来られた際に、生活や健康面について報告している。</p>
<p>15 運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>家族会を3ヶ月に一度程度ではあるが開き、家族同士で話し合う機会を設け、その後意見や苦情を受け付け、対応している。</p>		<p>相談窓口を設置し、玄関前には相談、苦情箱を設けている。</p>
<p>16 運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>月一回のミーティングの際に意見をきいている。また、日常的に何でも話して貰える様促し、職員を声を大切に意欲の向上や質の確保に努めている。</p>		
<p>17 柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>利用者の状態やペースに合わせ勤務体制をととのえている。また、その都度必要に応じて柔軟に職員の配置を考え対応している。</p>		
<p>18 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>異動することが極力無い様に努めている。やむおえない場合、時期や引継ぎの面で最善の努力を行い利用者にはダメージが無い様配慮している。</p>	○	<p>職員の異動はもちろん実習生が来られた時には利用者さんに紹介している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>認知症フォーラムやスタッフ研修等受ける機会を順番に働きかけている。また、その後合同ミーティングにて研修内容を報告し職員全員が共有できるよう努めている。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>グループホーム協議会へ参加し、同業者の意見を聞くなど交流する機会をもうけている。</p>	<p>○ 他のグループホームの見学を取り入れサービスの質の向上に努めたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>職員のストレスの要因の把握、勤務内にも気分転換できる休憩室を確保している。また、職員間の人間関係には気を配り、把握に努めストレスの軽減になるよう配慮している。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<p>勤務状況の把握に努めストレスや疲労感をためないよう健康面もサポートし、ならびに資格取得に向けた支援も行っている。</p>	<p>本人の意向を重視しながら資格取得に努めてもらっている。</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>利用開始前に利用者の方、家族に話し合いをし、心身の状態や不安に思うこと等話し合う機会をもうけ、受け入れてもらえる様関係づくりに努めている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>23同上也に記載しましたが、利用開始前に会い、話をし、不安に思うこと、今までの利用状況や経緯について話し合う機会をもうけている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人、家族と話し合いを行い必要なサービス、支援を見極め対応に努めている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人・家族の方にホームへ見学に来てもらい雰囲気を見てもらったり、また、すぐに利用になる場合には家族の協力のもと安心感を持って頂く為来ていただく等の工夫をしている。		利用者さんの気持ちに配慮し少しずつ慣れて頂きサービス提供を行っている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	生活の場において、教えてもらったりと共に支えあえる関係づくりを築けるように努力、配慮している。		無理のない程度で一緒に行える場面を作りお手伝いをお願いしている。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	行事の参加など呼びかけ家族の協力を得、家族・利用者・スタッフ共に支えあえる機会をもうけている。また、家族の方の面会時には声を掛け利用者の様子、職員の思い等細かく伝えている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	利用者、家族のパイプ役になれるよう支援している。		家族の方に行事や家族会等の声を掛け協力を得、参加して頂いている。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	支援してはいるが年々少なくなってきている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の関係について職員は情報連携し、共有できるようにしている。また、日々の変化を注意深く見守るようにしている。		トラブルを未然に防ぐ為の努力、見守りを行っている。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	継続的は付き合いが出来るよう心がけてはいるが病気悪化にて終了する事が多いので今現在、継続的に付き合いをしている利用者、家族がいない。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中で声を掛け把握に努めている。意思疎通が困難な方の場合には家族から話をきき情報をもらっている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人や家族、ケアマネの方より情報をもらっている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	利用者一人ひとりの生活リズムを理解し、利用者の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	アセスメントを含め職員全員でミーティングを開き、意見交換を行い介護計画を作成している。		月一回ミーティングを開き行っている。本人、家族の要望も聞き入れ作成。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	期間が終了する前に見直し、状態が変化した際は新たに作成するなど常に検討、見直しをおこなっている。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	経過記録を個別に記録し、水分量や食事、排泄等細かく記入。日々の暮らしの様子や本人の言葉等も記録に残し個別記録をもとに介護計画の見直しにいかしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人家族の状況に応じ通院、受診等必要な支援は柔軟に対応、支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	利用者が安心して地域で暮らし続けられるように対応し、支援している。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	利用者の状況、希望に応じ配食サービスや訪問理美容サービスを利用している。また、福祉用具・介護タクシーなども必要に時利用している。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議を行い少しずつではあるが関係が強化。情報交換、協力関係が今以上に築けるよう努めていきたい。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	希望する医療機関への受診を支援している。また、ホームに看護師があり日々利用者一人ひとりの健康管理に努めている。基本的に家族対応の受診となっているが不可能な時は代行している。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	提携医療機関に専門医があり連携を取りながら状態にあわせ相談や治療を行うことが出来ている。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護師があり気軽に相談できている。看護師がいない時間帯のことは介護職員の記録をもとに連絡、連携をとっている。急変時には24時間オンコール体制で常に看護師と連絡が取れるようになっている。また、看護師と提携医療機関との連絡も密に取れる体制が確保されている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	ホームに看護師があり、看護師が医療機関と情報交換や相談を行い早期早退に努めている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化に伴い必要時家族を交え話し合いを行い、事業所が対応し得るケアについて説明を行っている。終末期に関する対応の指針を契約時には説明している。現在まで終末期を迎えたケースはなく、今後に向けスムーズに対応出来るよう日ごろから話し合いを持つようになっている。	○	
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携を取り、安心、納得した最期を迎える事が出来るよう随時意思を確認しながら取り組んでいる。	○	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>今までの暮らしが継続出来るよう、これまでの生活状況、支援内容、注意点について情報を提供しダメージを防ぐ様努め、連携を心がけている。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>利用者一人ひとりのを尊重した言葉掛けや対応を行う様努力している。記録等他の方の目にふれぬ様扱っている。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>職員側で押し付けることをせず、一人ひとりの利用者が自己決定できるような場面を作り支援している。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>体調やそのときの気持ちに合わせ、一人ひとりのペースにあった生活が出来るよう支援している。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>自己決定が可能な利用者は本人の意向で決め、自己決定が困難な利用者には職員と一緒に考えオシャレが出来るよう支援している。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>個々の好みを把握し献立にいかしている。また、茶碗ふき、エプロンたたみ等無理のない程度で行って貰っている。</p>		<p>職員朝・昼・夕と利用者さんと一緒に食事をとり楽しく食べられている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	基本的には入居者の自由になっているが喫煙の場合、職員がタバコを預かり希望にそい手渡しするようにしている。また、防火などに配慮し、場所をきめ吸ってもらうようにしている。他入居者の方に迷惑にならないよう支援している。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人ひとりの排泄パターンに配慮し定期的に誘導している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	利用者さんの希望に合わせて対応し、入浴を楽しんで頂いている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	本人の自由な生活リズムを保てる様考慮しているが昼夜逆転が起こらない様日中散歩やお手伝いをしていただき安眠してもらえる様支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	特に役割は決めていないがその都度声がけし入居者の負担にならない様お願いしている。		ドライブ・買い物に誘ったり気晴らしをして頂ける様支援している。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人の力量に応じておこずかい程度ではあるが自己管理されている。入居者が買い物する際、付き添い出来る限り、自分で払って頂けるようにお金を手渡すなど工夫している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	本人の希望にそい、買い物・食事等外出支援をおこなっている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	本人・家族から希望がある時には職員の勤務の調整を行いながら出来る限り支援している。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	手紙・電話は自由に利用する事が出来る。困難な方には電話、手紙を書いてさしあげるなど対応している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	自由に訪問(面会)出来るようにしている。リビングや居室などお茶など飲みながらゆっくり過ごして頂いている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束について勉強し、正しく理解している。また、身体拘束委員会をもうけチェック項目に沿って月に一回拘束を行っているか記入するようにしている。ホームでは身体拘束一切行っていない。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	利用者が外出しそうな様子の時はさりげなく声をかけ、一緒に行き安全面に配慮して、自由に外・内を行き来出来るようにしている。		一切鍵をかけていない。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>67 利用者の安全確認</p> <p>職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>職員は利用者と同じ空間で記録等記入し安全に留意し、また、夜間は1時間～2時間おきに様子を確認している。起床時すぐに対応出来るようにしている。</p>		
<p>68 注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>職員間、又は、家族の方とも相談し対応、検討をして危険を防ぐよう取り組んでいる。</p>		
<p>69 事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>一人ひとりの状況から危険を検討し、事故を未然に防ぐ工夫に取り組んでいる。</p>		
<p>70 急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>救命講習を職員一同受けており、すぐに対応出来るよう備えている。</p>	○	<p>何度講習、訓練を受けても不安感がある。</p>
<p>71 災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>災害時には緊急連絡簿によりスタッフ緊急要請、災害時マニュアルも作成している。また、火災時の避難誘導を年2回、消化訓練1回等定期的に行っている。</p>		
<p>72 リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>一人ひとりのに見合った事例や実例にあわせ家族の方に説明、話し合いし、対応している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>普段の状況を職員把握しており、食欲、顔色、様子等の変化が見られた場合、バイタルチェックを行い変化時記録にのこしている。状況により看護師、医療機関、家族へ連絡。すみやかな対応ができる様努めている。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>処方箋ファイルを作成し職員が内容を把握出来るようにしている。また、体調・症状の変化を日々確認し看護師に報告、指示をもらっている。</p>	
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>乳製品、食物繊維の多い食材を提供したり便秘解消に努めている。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>朝・晩、口腔ケアを行い清潔保持に努めている(昼食後ベッドで休まれる際は口腔ケアおこなっている)。また、夜間は洗剤につけ保管している。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食、水分・食事をケース記録に記入し把握に努めている。</p>	
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。</p>	<p>感染防止委員会が主となり行っている。肝炎の方の食器消毒、ノロウイルス対策、インフルエンザの接種等の取り決めがあり、実行している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	まな板やフキン、調理器具は漂白し清潔を心がけている。また、冷蔵庫内は週に一度中を出し、酢で消毒衛生を保つようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	手すり、椅子を設置し安心して出入り出来るよう工夫している。また、花を植えたり、クリスマス時期にはイルミネーションを飾って親しみやすい様にしている。		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	五感や季節感を意識的に採り入れる工夫をしている。		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	ビデオ、オーディオ前にソファがあり、くつろぎのスペースとして活用して頂いている。		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	なじみの物をおき、居心地よく過ごせるよう配慮している。また、思い出の写真をかざったりしている。		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	利用者に聞きながら換気を行っている。また、掃除の際には窓を開け換気。トイレからの悪臭が出ないように常に注意を払っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="checkbox"/> ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> ① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="checkbox"/> ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="checkbox"/> ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい <input checked="" type="checkbox"/> ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての家族 <input checked="" type="checkbox"/> ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに <input checked="" type="checkbox"/>④ほとんどない</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている <input checked="" type="checkbox"/>②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が <input checked="" type="checkbox"/>②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が <input checked="" type="checkbox"/>②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載) 利用者様の快適な暮らしを常に心がけている。外出後などやっぱりホームが一番とホームへ帰ってきてくださる。利用者様の声にも更なる心の繋がりを大切に支援して行きたいとおもっています。